争議ニュース

勝見下駄工場

勝見工場 争議団 第二号

1952.2.13.

No.2

生きながらの地獄に働く 労働者！

物凄い勢で廻転するマルノコ。目の廻る様な恐ろしい勢で廻るベルト式の生きながらの地獄で働く木材労働者や下駄工場の職工程[illegible]をちぢめるものはない 工場の中に危険よけの設備がないためベルト廻き込まれ片腕をもぎ取られマルノコで指をなくするものゝこうした労働者の犠牲、かたわになったからと工場をオッポリ出す、資本家の無慈悲、こうしたむごたらしい事件はヒンピンとして各工場にボッ発してゐる。

資本家と政府がグルになって毎年やる安全週間こそ資本家が自分の設備の不完全を労働者の心のゆるみになすりつけるためにやるのだ勝見下駄工場の勝見銀蔵は其の張本人だ！。

見よ 勝見の工場法違反を！。

物凄い勢で廻るシャフトになんの危険よけの設備もせずにその上をマタガセテ職工に仕事を強制してゐるこんな所で仕事をすれば負傷するは受合だロクな設備もせずに職工が負傷すればウスノロ奴がと頭からドヤシつけビター文の手当もくれず工場法(資本家と政府とグルになって作ったカタワの法律)できめてある扶助料すら払はないぢゃないか それはキズが全快しないうちから仕事に来いと強制的に引っぱり出してけつにむちをあてて使ってゐるのだ 機械だって故障がなほるまでは運転しないじゃないかこんなに酷使されてはやりきれんから健康保険だけでも加入さしてくれとお願すればそれすらしないのだ先達っては保険署から二百円の罰金を取られてゐるそれでもこりずにまだ職工を健康保険に入れずほったらかしてあるのだ

労働者イジメに狂奔する静岡署の犬共！

こうした公然と工場法違反をやってゐるのに工場課から見廻りに来る奴は口[illegible]に工場も調べずに勝見から丼一パイぐらいで頭をペコくさげて帰って行くどこまでもズズシイのは勝見銀蔵だ 勝見は帰ったあとで「あいつらは金で目がくらむからどうにでもなる」とホザイてゐる。勝見や工場課の奴はウーボー[illegible]かなかも知らんがアオイ[illegible]は労働者だ だから[illegible]はおとなしく危険[illegible]備を完備してくれと[illegible]してゐるのだこのおとなしい従業員の嘆願をサーベルでおどかし組合の代表二名を検束して行き公務執行妨害罪でひかけやうとしてゐるいつも勝見から金でゴマカサレてゐる奴等だと冷笑されてゐる静岡署の犬共

勝見の裏座敷に陣取って強欲勝見を守ってゐる金のためには頭のハチあわ[illegible]知らんとはこいつらのことだ これで警察の正体がわかった

労働者の利益をフミニジる犬共と飽まで戦へ！

静岡署の特高課を労働者の手で裁判せよ！

ゴシップ

職工「あまりひどく酷き使いあがるナア人間は感情の動物だぞ」

勝見「ハア勘定の動物か」

組合員「感情と勘定の大間違をしていやがらア無神経野郎メ」